

＼おめでとう／ 茨木市吹奏楽団 50周年

茨木市吹奏楽団は、東京オリンピックの年、1964年（昭和39年）に社会教育や音楽文化向上を目的に市民団体として設立されました。当時の団員は20名でスタートしました。半世紀にわたる吹奏楽団の活動について団長の中西智史さんにお話を聞きました。

◆楽団の歩みと現状

1967年（昭和42年）に現在の常任指揮者であるなかはら まさゆき 中原正行さんを迎えました。翌年、関西吹奏楽連盟に加入し、コンクールにも出場するようになりました。大阪府にはたくさんの吹奏楽団があります。これは中学校の吹奏楽部が盛んになっていることが背景にあります。現在の団員は90数名で、全員アマチュアです。演奏会毎に会場の規模や団員のスケジュールに応じて構成を変更します。楽団員の年齢は平均すると20歳代後半で、女性が7割を占めます。練習は基本週2回（水曜と土曜か日曜）、生涯学習センターでおこなっています。

◆演奏活動とコンクールでの活躍

最近春と秋の定期コンサートや「クリスマスコンサート」、そして、子どもたちを対象とした「ふれあいコンサート」を開催しています。また、市内の老人福祉センターで「敬愛コンサート」などもおこない、音楽を通じて地域社会との交流を図っています。その他は、茨木市の関係部署が主催される各種イベント等への出演がほとんどです。

また、コンクールにも出場してよい成績を残しています。大阪府吹奏楽コンクールでは、この6年間連続金賞を受賞しました。さらに、関西大会でも銀賞や銅賞をもらっています。賞をとることだけが目標ではないのですが、このような成果は府下での知名度を上げることに繋がりが、団員の誇りや次の目標を持つ励みになっています。

◆楽団の運営

コンサートを開こうとすれば莫大な費用がかかります。以前は市から補助金をいただいていたこともあったのですが、今では行事などに出演する委託料をいただいています。市からは毎年定例の行事によんでもらうなど協力してもらっていますので、定期演奏会は入場無料で開催しています。発表の機会がなければずっと練習しているだけなので、多くの機会を与えてもらっていることに感謝しています。

◆50周年を迎えて、次への展望

今年は華やかな50周年ということで、作曲家の福田洋介さんに茨木市吹奏楽団のオリジナル曲をつくってもらいました。「祝典序曲～ともに未来へ～」という曲です。演奏会において自分たちの色合いを出せるようになりますので、大きな財産だと思っています。また、団員はみんなで賞をとるという目標で団結するとともに、演奏会でたくさんのお客さんに少しでも素晴らしい音楽を届けたいと思っています。派手なことではできませんが、1年ごとの目標を達成しながら、次の100周年を迎えられることが大きな目標です。



この人に会いたくて

茨木ロボット教室
大野工房 代表
おおの かずひろ
大野 一廣 さん



大野一廣さんは、次世代を担う小中学生を対象に生涯学習センターや市民活動センターなどでロボット工作教室を開催されています。子どもたちが工具を使って、材料加工から手作りの工作をすることで、「ものづくり」の喜びを感じ、理科への興味・関心を持っていただくと、ロボット工作の活動に取り組んでおられます。



●ロボット教室を始められたきっかけは

子どもの頃からラジオや無線機を作ったりするのが好きでした。そして、就職したのも世界最小の電卓を作った電子機器メーカーでした。その後、転職して日本橋商店街の一商店に勤めました。そのとき、商店会（でんでんタウン）の理事から「これからのお客さんを育てなければいけない。子どもたちに教えることで10年後20年後にお客さんとして帰ってきてくれる」といわれました。そこで、退職後にでんでんタウンで電子工作教室を始めました。12年前のことです。ロボット工作教室が併設されたのは、2004年に大阪市がロボカップ世界大会を誘致したのがきっかけでした。当時、大阪には大人がロボット作りをするような場所はあったのですが、子どもが作ったり動かしたりできることはありませんでした。それで、私たちのところに手伝ってくれないかと頼まれたのが始まりでした。その教室には滋賀県や三重県からも毎月通ってくる子もいました。2005年には高槻の女の子がロボカップのジュニア部門で優勝しました。そして、このようなことを10年もやったので、今度は地元茨木の子どもたちにも電気や電子に興味を持つ機会をつくってあげたいと思いました。

●どのような活動をされていますか

昨年、茨木で初めて「夏休み親子工作教室」を開きました。場所は生涯学習センターや青少年センター、穂積コミュニティセンターなどです。簡単なダイオードの発光装置や滑車を使って変速するおもちゃを作りました。自分で苦労しながら実体験してみるというのが教室開催のポリシーです。今年は茨木市の提案公募型公益活動支援事業補助制度に応募して認められました。これで「茨木ロボット教室」の実施が決まり、テーマを積み上げていく連続講座を開催

できました。どの工作教室も申込みが多くて驚いています。親御さんが賛同して連れてきてくださるのでありがたいです。

●子どもたちの様子はどうでしょうか

トランジスタや抵抗をハンダでつないで作品が動いたときの子どもたちの笑顔が素晴らしいです。家庭や学校で使う機会のない工具を使うときも興味津々です。特にハンダ付けはおもしろいようで、金属が溶ける状態を体験すると子どもたちはなかなか止めません。工具の使い方は年齢によってさほど差はありません。扱いを誤ると危険であることも体験して学んでもらいます。男の子にはやはり車作りなどが人気で、女の子は動くメリーゴーランドなどを喜びます。早く動かして遊びたい子もいれば、いつまでも丁寧にきれいな絵を描いている子もいます。低学年の子はやはり仕上がりが遅くなりがちですが、追いたてないことを心がけています。早くできた子が自分の学んだことを下の子に教えるようなこともあります。こんな機会も大切ですね。子どもたちはチャンスさえあれば、昔の子と全く変わらない創造性を発揮するものです。



●今後の抱負を聞かせてください

私は自分で作ったラジオで海外放送を初めて聴いた時の感動が今も残っています。子どもたちに自分と同じ自作の楽しさを伝えたいのです。きっかけがあれば子どもたちの知識欲は無限に大きくなると信じています。願わくば工作に興味を抱き、工業高校や高専、工学部など理系に進学し、「技術立国日本」の未来を担う大人に育てて欲しいと思っています。

さらに、今度はお年寄り子どもたちの交流を提案したいと思っています。紙相撲ロボットを作って対戦したら面白いんじゃないでしょうか。老人ホームなどに声をかけて世代間交流ができれば楽しいですね。こういう活動を一緒にしていく仲間が増えれば良いなと願っています。そのためのお手伝いをしていただける方を募ってまいります。



ロボット工作教室に参加した子ども達